

佳作

## 私のお母さん

栃木県

那須塩原市立埼玉小学校 六年

武藤 菜穂

私のお母さんは、助産師をしています。自宅で助産所を経営しています。そのため私、お母さんの仕事を手伝うことがあります。出産しているところは、見たことはありませんが、患者さんの退院するところを見ると、とても幸せな顔をしています。お母さんは、そんな患者さんにも、私の家族にも笑顔を与えてくれます。

私の将来の夢は、お母さんと同じ助産師になることです。私は幼いころからお母さんは

「菜穂は、助産師が一番合っているよ。」

と、話していました。その言葉もあって、私は小さいころからこの夢に決めていました。

幼い時は、お母さんのこの言葉だけで夢に向かっていたのですが、今はちがいます。今の私の思いは、赤ちゃんとそのお母さんを救って、幸せになつてほしいということです。命を守りたい。これが私が強く思っていることです。

お母さんは、助産師になろうと思った時は、どういう思いがあったのでしょうか。不安などなかったのでしょうか。

私には、たくさんの不安があります。助産師になつても、もし赤ちゃんやお母さんに何かあったらどうすればいいのか。本当に私は、命を守ることができるのか。考えれば考えるほど不安になります。

でも、お母さんは、私に勇気を与えてくれます。お母さんは気付いてないと思いますが、仕事をしている時のお母さんの姿は、私に勇気を与えてくれる姿なのです。

お母さんの仕事は、あかちゃんの命を預かることと言えます。私は、お母さんと一緒に往診に行つて手伝うことがあります。仕事中に赤ちゃんを抱くと、命の重たさを実感することができます。お母さんは、私にたくさんの経験を与えてくれるのです。

お母さんは私にたくさんのことを与えてくれます。笑顔、夢、勇気、経験、そして幸せなど、私にも患者さん、その家族にも与えてくれるのです。

私は、そんなお母さんに「すてきな夢をもたせてくれてありがとう。」と心から伝えたことはありません。ちょっとしたことなら簡単に「ありがとう」を言うことができますが、夢を与えてくれたことに対して、心から「ありがとう」を伝えることは今の私には、まだ早いと思います。夢に向かつて、たくさんの努力をしなければならぬと思うのです。

私もお母さんのように、たくさんの人に笑顔を与えられる人になりたいです。そして、笑顔を与えられる人になった時お母さんに心の底から「ありがとう」を自然に言えることでしょう。